富山大学 学園ニュース

特集■「卒　　業」
「退官雑感」

編集　学園ニュース編集委員会　　発行　富山大学学生部　　平成6年3月　NO.83

目　　次

特集「　卒　　業　」

卒業生へのはなむけの言葉

人文学部長 …… 1

教育学部長 …… 2

経済学部長 …… 3

理 学 部 長 …… 4

工 学 部 長 …… 5

特集「　退 官 雑 感　」…… 6

わたしの研究室

（人文学部）…… 13

（教育学部）…… 14

（経済学部）…… 15

（理 学 部）…… 16

（工 学 部）…… 17

留学生コーナー

海外旅行を計画の学生のために …… 18

トピックス

1994年寒中水泳大会 …… 22

富山大学体育会30周年 …… 23

スキー講習会（在来生合宿研修）を振り返って …… 24

学生部だより

平成５年度富山大学学位記等授与式について …… 25

下宿等の紹介方法について …… 25

後期授業料免除について …… 26

平成６年度前期分授業料免除・納付猶予のお知らせ …… 26

知っていますか。「学生健保」・「教災保険」 …… 27

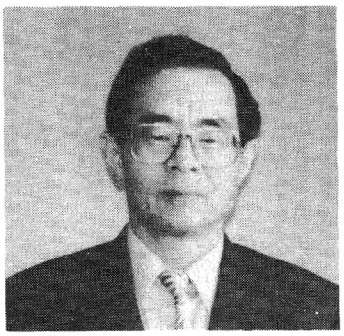
保健管理センターだより …… 28

キャンパスウォッチィング …… 30

「ヘルン文庫」縁起　6 …… 32

卒　業

卒業生へのはなむけの言葉



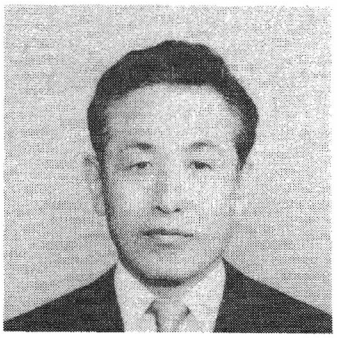
人文学部長　小谷（おだに）　仲　男

世界システムのなかの自己発見

卒業生の皆様，おめでとうございます。皆さんが入学した時とはうって変わって，不景気のなかの門出となりました。まずはご健闘を祈ります。私は教養教育と専門教育において歴史学を講義していましたが，歴史好きの人が多いせいか，多くの人に私の歴史学を聴いていただくことができ幸いでした。しかし少し物足りなさを感じています。それは若い皆さんが歴史学を自分の生活と密着させて考えていないのではないか，いいかえれば社会の変化を実感として受けとめていないのではないかということです。団塊の世代の同僚が私にいいました。「それはそうですよ。いまの学生諸君は生まれたときから新幹線が走り，カラーテレビがあり，めぐまれた環境が日常のことになっているのだから，社会変化を十分に意識できないのはあたりまえですよ」と。そういえば「戦後」という独特のニュアンスをもつことばも，学生諸君にはもはや通用しないかもしれず，ときどき私は講義のなかで第二次世界大戦後といいなおしています。「戦後」ということばとともにあの大きな社会変動，敗戦の苦い体験と生活難，物不足，外貨不足，デモクラシーによせる期待などを実感として思いおこせるのはせいぜい団塊の世代（第一次ベビーブーム）までしょうか。しかし，いちばん苦しい犠牲を強いられたのは大正生まれの世代（1912—1926）で，そういう意味では戦争体験はまだ歴史になりきっていません。

社会は目に見えなくとも着実に変化していました。皆さんは大学在学四年間に，東西ドイツの統一（1990），湾岸戦争（1991），ソ連崩壊（1991），パレスチナ暫定自治協定の調印（1993）という世界史に残る大事件を目撃することになりました。しかしそれも長い経過の結末にすぎません。こうした一連の世界的事件と今日の不景気とがどう関わるか速断するのは難しいとおもえますが，世界の局地的事件でもすぐに私たちの生活に影響してくるのが現代社会の特徴です。私は「世界経済」，「世界システム」とかは，人類史のはじめから作用していると主張していますが，自己と世界との関わりを実感できるようになったのは確かに近現代の特徴です。科学技術が高度に発達した現代社会は，ある意味で人類が危険な賭けの時代に入ったともいえます。世界システムの歯車を個人の力で止めたり，逆転させたりすることはできませんが，平和な社会，地球環境の保全に心がけるひとが多ければ多いほど，人類は危機を脱することができるでしょう。むずかしい決断を避けて，神頼みに走るまえに，ふみとどまって自分の将来と人類の未来を重ねあわせて考えてみてください。

卒業生・修了生に寄せる



教育学部長　**加　瀬　正二郎**

大学での研鑽の功なって，いま卒業の日を迎え社会に巣出たんとしている卒業ならびに修了の皆さん，心からの祝福を申し上げるとともに今後の活躍を願うものである。

今日では，大学を卒業することは特に珍しいことではなくなってきている。皆さんも，それを当然のこととして受け入れているであろうし，最高学府を終えたという実感は乏しいかも知れない。最高学府と言う言葉ももはや死語に近いかも知れない。しかしながら，諸君と同じ年頃の多くの人達が，既に社会で働いていることも事実である。皆さんは，まず，このことを認識しなければならない。つまり，国立大学の学生として4年間（またはそれ以上）を送り，その間を勉学に専念できたことは大きな特権なのであって，そのことを深く感謝しなければならないのである。即ち，精神的にも経済的にも諸君を支えてくださったご両親をはじめとする多くの方々のお蔭をも肝に銘じておかなければならない。”Noblesse oblige”，「特権は義務を伴う」のである。その気持ちを失うことなくこれからは社会人として，自分の職業を全うして，社会のために貢献して頂きたいと願っている。

さて，卒業に際して心残りなのは，教員を目指しながら方向を転換せざるを得なかった人や，就職が決まらない人がいることである。わずかの間に，不景気の波の中での厳しい就職難が現出している。しかし振り返ってみると，売り手市場であったのは決して長くはなかったと思う。就職難は苦しいことであるが，人生に試練は付き物である。教員への初志を貫徹するなり，自分の天職としうるものを求めるなりして，この試練に立ち向かい，自らの人生を切り開いていってほしいと切に望むものである。

諸君は長い学生生活を通して，学問を修め，師や友から多くのことを学んできたはずである。学問の府で最も尊重されるのは，理性的であることであろう。事象を客観的に観察し，論理的に考えることである。しかしながら，透徹した知性が求められるのは，なにも学問の世界に止まるものではない。現実の社会の方が，さらに冷静な判断や整然とした論理を求めるであろう。ところが，知一辺倒では，漱石の言うように角が立って仕方がない。社会生活には，仕事への情熱や人間的な暖かさが伴わなければならないし，自然への感応や豊かな感情が求められる。ある人は，”cool head and warm heart”を尊しとした。東洋的に言えば，知・情・意と言うことになろうか。ロゴスとパトスを備えた人，知の人であるとともに情の人であってほしいと思う。

大学を終えるということが，勉強の終わりでは決してない，むしろ，それは新しい始まりである。人生は白いキャンバスに絵を描くのに似ている。健康に留意して，すばらしい絵を描いていただきたいと念願している。

経済学部の卒業生へ

経済学部長　**吉　原　節　夫**

諸君ご卒業おめでとう。心からお祝い申し上げる。今年は，周知の通り政治・経済・雇用問題その他各方面で甚だ厳しい情況を迎えており，企業・役所・団体・家庭にいる者がそれぞれの意識改革を迫られている。このようなときに，諸君は，新たな門出をするわけである。諸君を学園から送り出す教師のひとりとして，私が最も強調しておきたいことを餞の言葉に託して述べておきたい。

第1は，物事（ものごと）を「正確に」というキーワードである。諸君の大学生活は，バブル経済，その崩壊，長期化した経済不況という激変の時代を通過したわけであるが，この時代の出来事は我々に多くのことを教えてくれる。大まかに言って，バブル経済に関しては，企業や経済評論家が経済現象及びその動向と影響について正確に分析・把握をしていなかったと言えるし，不況の長期化については，経済関係官庁の情況認識や分析に正確さを欠いていたと言えよう。

それにつけても，留意しておくべきことは，現代はまさに情報時代ということ。新聞・テレビを通じての情報，雑誌・単行本等による解説や提言，諸官庁・民間研究機関等より発表される統計数値などが，毎月毎週，大量に出廻っている。今後とも情報競争は続くであろうが，それは情報〝狂騒〟を生むに至っている。正誤入り乱れ，玉石が混交し，実像でない虚像をつかまされることがいかに多いか。日本のマスコミ記事，評論家の解説，そして，これらを受ける側の企業人や市民が極めて〝流行〟に弱いという体質をもっているので，上記の傾向をますます助長してきた。諸君は，正確に物事を把握するように心掛け，自分で検討・分析し，自分で色々「考えてみる時間」を持つようにしてほしい。同時に，日常の業務に関しても，「正確に」読み・書き・記帳し・まとめ・話し・伝えることに努めるべきである。

第2は，「柔軟に考える」というキーワードである。諸君が勤務する企業・官庁等の組織は，何よりも複数の人間が最も重要な構成要素となっている。我々の市民生活に関ってくる国・県・市や地縁団体もそうであるし，家庭も同様であるが，忘れてならないことは，同じ組織・社会の人々が皆自己の信念・意見・感情をもっていることである。知識・経験・価値観を異にする人々が，それぞれ思想・信教・表現の自由を基本的人権として認められて社会を構成しているのだから，自分の考え通り組織・社会がいつも動くものではない。全体意思として決められた規則や法律もある。民主主義の基本原理から言えば，絶対的な主張や見解はもともと存在しえないわけである。しかし，昨今のニュース等で見聞する行動や主張には，この民主主義原理を忘れたものが多くなっている。討議をし構成員が妥協して全体意思が形成され事が運ばれていく民主社会において，諸君は，物事を「弾力的に」考えておき，ある局面や段階で自分の主張・希望・思惑通りに決まらなくても，絶望したりヤケになったり暗くなったりしないことが肝要である。それだけの「幅の広さ」を身につけなければならない。

制限字数を越えたので，最後に，諸君のご健勝とご多幸をお祈りして擱筆する。

新理学士・新理学修士の皆さんへ

理学部長　**松　本　賢　一**

待望の雄山登頂を果たしたのは1986年の秋分の日であった。雄山神社の神主によれば数年来の快晴ということで，アルプスの山々はもちろん遠く富士山や八ヶ岳も望見できた。妻と共有する人生の大切な記念の一つである。それまで，登り勾配に弱い私は，いつかは必ずと思いながらも踏み切れないでいた。その日も，好天に誘われて妻と立山へ向かったが，弥陀ヶ原と紅葉を楽しむつもりであった。だが，ひと月程前の御岳登頂の感激と自信が，雄山を眼前にしてこみ上がり，妻をもその気にさせて，登頂に踏み切らせた。では，その御岳登頂にまつわる話をさせていただこう。

毎年８月下旬，私の出身研究室の夏の学校が，大抵は御岳中腹の名古屋市民休暇ハウスで，開催され，よく富山から院生を連れて参加していた。なか日の午後のエクスカーションにはいつも，参加者は，車に分乗して田の原（2180ｍ）に出かけ，多くがそこから御岳（3060ｍ）に登った。私は，いつかは山頂迄と思いつつも，周りが石と這松になって展望が開け，そこから勾配が一段と急になる８合目辺りで満足していた。

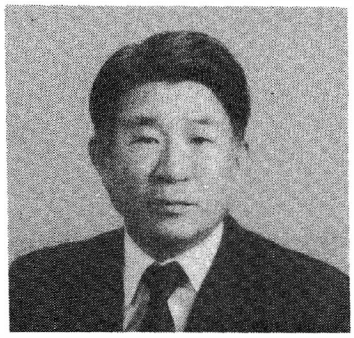
夏の学校では，画期的な仕事をした先輩で温厚・熱血のヒューマニストの，Ｏさんに会えるのも楽しみだった。Ｏさんと夫人の，それぞれが旧制高校生と旧制高女生だった頃からの，10年の恋愛は私たちの羨望の的であった。だがむしろ，その終盤の波乱に，大学院に入ったばかりの頃の私は，青春の心を揺さぶられた。その年の正月，Ｏさんはフィアンセの父と酒を共にしたが，話が政治，信条に関わる事柄に及んだか，温厚のＯさんも若き熱血を自制し切れなかったか，彼女の父の逆鱗に触れ，「娘はやれない」となり，彼女も禁足となった。暫くはなすすべもなく途方に暮れていた彼に，彼女からの手紙が，彼女の親友を介して，届けられた。以後，その親友の助力で，通信が往復し，彼女の家出の準備が進められた。家出後の準備も整えられ，家出が決行された。彼女の父の出方に備える緊張のひとときがそのあとに続いた。学会を代表する高名な大家となられたＮ先生が対策責任者だった。大方の予想に反して彼女の父が折れ，波乱は過ぎ去った。

それから30年余り経過した初夏の日，80才を越した夫人の父がＯさんに御岳登頂の願望を述べ相談した。暫く後の好天の日の朝，Ｏさんは，夫人と夫人の両親を乗せた車を駆って田の原へ向い，そこから３人を援助しつつ御岳を目指した。夫人はもちろんＯさん自身も御岳頂上を目指すのは初めてだった。ゆっくりと少し登っては休むのを繰り返しながら，それでもなんとか，待ちわびて少し下迄出迎えにきてくれた御岳山荘の人に迎えられた。翌朝の４人の御岳頂上での感動はいうまでもない。

夏の学校で，Ｏさんの御岳登頂の話を聞き，絶対に登頂すべく決意し，達成した。その感激と自信が室堂（約2400ｍ）からの雄山（3006ｍ）登頂の力となったことは既述した。

類似の体験が仕事上でも思い出される。目標と達成意志の具体的自覚的確立の要因は，願望や課題意識の醸成と保持，見・聞・読で知る先覚の営為や考え方，感動する心等のリンクであるように思われる。心に留めて下されば幸いである。皆さんがよりよい未来を築かれるよう願っている。

工学部卒業生・修了生の皆さんへ



工学部長　**時　澤　　貢**

学部及び大学院の皆さん，長い間螢雪の功あり，めでたく卒業，修了されることになり，誠におめでとうございます。いよいよこれから工学技術者として社会の一員となられ，生産技術の革新に伴う時代の変化に適切に対応した皆さんの学修効果が期待されています。現在，我が国は科学技術の発展，産業構造の変化及び女性の社会進出，さらには国際貢献といった社会の様々な局面を迎えています。特に，経済成長に大きな陰りが見られる今日，創造的で活力ある社会を築かねばなりません。ここで“翔べ！21世紀の工学技術”を卒業生，修了生の皆さんへの合言葉といたします。さてこの合言葉に最も適切な人間像に工学部キャンパス内に建立されている逞しいブロンズ像を思い出して下さい。この像は，高岡市の著名な芸術家故畫間弘氏の逸品で，昭和60年９月工学部が高岡市から五福キャンパスに移転した記念事業として噴水横に建立されました。作品名は「雄気」です。若人の活気ある巣立と躍進を象徴しています。具体的な容姿は古来中国の「合気道」や大学の応援団の鉢巻き，たすき掛青年の「エール」にも見えるがよくよく洞察すれば違いが見受けられます。それは胴体に直角方向に伸びた左手の「指先」は天と地の水平線「豊かな環境づくり」を目指し，右手の腰にあてがった「握り拳」は前進に満ちた活力と包容性のある「豊かな心」の持主，さらには下半身の右足の「一歩前進」は無から限りない前進，まさに“翔べ！21世紀”を象徴しています。また，この像は男性ですが，刈り上がった横別けの頭髪で左手指先に集中した鋭い眼指しはまさに若人の生きがいを示す人間哲学，そして女性の皆さんにも感動を働きかけていると思います。どうか，今一度このブロンズ像の精神をよく認識していただき，本文一読の上歩むべき人生の指針として参考にしていただければ幸いです。ここで，近年工学部の歩んだ経緯並びに今後の改革についてふれてみたいと思います。ご承知の通り工学部は旧来７学科でしたが，それに情報と化学生物系が加わり９学科となり，学部学生定員は305名から402名に増加しました。しかし，今日の産業構造の変革には旧学科形態での専門教育課程では対応し切れなくなり，文部省では平成５年以降の高等教育の計画的整備やカリキュラム見直しが打ち出されました。問題点は専門分野の分化，学科間交流，適合力，総合力の欠如や人事の硬直化などであります。従って，本工学部では学科を改組して４学科（電子情報工学科，機械システム工学科，物質工学科，化学生物工学科）にし，続いて平成５年４月より教養部を改組して幅広い教養と専門教育を目指し，４学科18大講座で四年一貫教育が実施されました。この度の卒業生，修了生の皆さんには時流に乗った教育が出来なかったことは大変残念に思います。しかし，これからの日本の工業教育は18才人口の減少に伴うリカレントやリフレッシュの生涯学習制度が確立されつつあります。工学部においても平成５年度より修士課程への社会人入学，さらに平成６年度より博士課程が開設される予定であり，学窓を巣立たれた社会人の皆さんにも，特別選抜制度が適用されますので，今後この制度を利用していただけることをお勧めいたします。学際的に国際化も目指す我が国の社会，経済の発展のため，役立つことを念願しつつ「量より質の向上」に向けた大学教育改革により，母校富山大学工学部の発展にご援助下さい。どうか皆さんには前述のブロンズ像「雄気」の哲学精神そして豊かな心，豊かな環境，豊かな物造りを大切に，創造と研究の精神で社会参加されることを併せて祈念いたします。

終わりに，いつまでもご健康に留意なされ，それぞれの仕事（職務）を生きがいとして，ご活躍下さい。

退　官　雑　感

When will return the glory of your prime?
No more, oh never more.

人文学部教授　平　田　　純（あつし）

この度，私は富山大学の定年制により，退官致します。昭和31年４月文理学部に着任した当時のキャンパスは，蓮町の旧富山高等学校校舎にありました。その後，昭和38年の五福移転に始まって，教養部のスタート，文理学部の人文学部と理学部への分離改組，語文棟への移動，そして今度の教養部廃止・新カリキュラム編成による大改革大変革など，富山大学の制度と場所については度重なる変化を経てきたことを思いだしています。

私が来たとき，英語の東宮（東工大），坂巻（熊本），哲学の原（東大）先生などを除くと，旧制富山高校で教わった先生たちが殆ど残っておいでだったので，高校生のころよりももっと身近に教えていただける幸運に恵まれました。今振り返って見ると，そういった意味を込めて，私は，優れた師と先輩たちと同僚たちに，また良い学生諸君に囲まれて，楽しく学び遊べたことに感謝し，富山大学で過ごせた歳月の（私にとっての）意義と有難さを実感しています。

「老兵は死なず，ただ消え行くのみ」といい，また「新しき酒は新しい革袋に」とも申します。いま富山大学のキャンパスを離れて消え行く老兵の一人として，富山大学の教官・職員スタッフと学生諸君が，常に新しい地平線を展望して進まれることを，とりわけ人文学部が広く豊かに充実発展されるよう，願うものです。そして最後に，だが最小でなく，諸兄姉の健康と多幸を祈ります。

再び車について

― 退職の挨拶にかえて ―

人文学部教授　本　田　　弘

1976年４月，文理学部（現人文学部）に赴任して最も驚いたことの一つに車の騒音の凄まじさがあった。

その時，「学園ニュース」から求められた挨拶は，この騒音を野放しにしている大学当局の怠慢を批判する趣旨の文であった。

それ故か，まもなく交通対策委員会が発足。私も委員となり，更に当初の委員長が任半ばで辞任，私が後を引き継いだ。また答申後は，実施の主体は経理部，委員会は解散と考えたが，当時の新井経理部長が存続を強く求められた結果，実施の主体は前者に，後者は存置させるものの，側面からの協力という形態をとることにした。経理部長は，学生の抵抗と妨害を予想し，委員会の協力なしでは実施が無理，と見ておられたからである。

事実，実施後まもなく，学生五団体からの団交の申し入れや（これは受けたが），最後には，鉄パイプ製の堅固な速度制限等の交通標識が殆んど折り曲げられたり，根こそぎ抜き取られたりもした。これらの惨状を見て，私は本学においては，1970年代の紛争がそのまま存続していること，一部とは言え学生の心が荒み切っている事実を認めざるをえなかった。

爾来18年の歳月が経過している。この間の大学側の労苦は何よりも多としなければならないが，残念ながら効果がさほど見られない，というのが実状だろう。メーンストリートの車の自由な往来があるものの学園の静謐は，多少保持されているとは言え，それも充分ではなく，ましてキャンパス内の歩行には常に危険性が伴っているからである。

しかし，地方都市に所在する本学の場合，車は厳禁できない。むしろ車による通学通勤可能のための駐車場の用意が大学側の責務だろう。1982年代の黒構再建の際にその跡地を駐車場に充てることや土地拡張のために県との折衝という別な面からの打開策の何れも頓挫。とりわけ現在の人文学部語文棟の孤立している姿は，県との折衝の挫折の哀れさを象徴しているが如く，私の目には映る。

そして今，本学は，キャンパスの中（長）期計画を立案中，建造物の高層化と緑化によって難問の解決が図られようとしている。計画が成功すれば，学園の新しい甦りが期待できよう。ただ，図面を見る限り，どれ程の駐車場が生み出されるのかは詳らかにしえないが，キャンパスの静謐化には叡知をしぼってほしいものである。

交通対策問題に当初から関与して来た一人として，再びこの紙面で同じ事がらを取りあげることに忸怩たるものがあるが，学園内の安全な歩行と静謐，キャンパス内における学生同士，教師と学生間の自由な交流がなければ，真に創造的で自由な研究教育，すぐれた人材の育成が至難だ，と考えればのことと，御寛恕を請う次第である。

「富山大学に思う－退官にあたって」

教育学部教授　野　村　　昇

富山大学を今春に定年退官します。41年余の長い間に，ご指導頂きました恩師と先輩の方々，お世話になり苦楽を共にして頂きました同僚と事務の方々に深甚の謝意を捧げます。また，勉学と研究に尽力され，苦労を共にされた卒業生と学生諸子にも謝意を捧げます。

先ず，薬学部に昭和27年夏から勤務しました。当時は茄子型フラスコの図面まで描いて注文してから半年して届き，漸く入手した薬品を仕込んで反応し，明朝楽しみに出勤すると，歪んだ粗製ガラスは自然破壊していたこともありました。とても外国や中央の研究機関に対抗するには無理があったようです。一日も休まぬ数年が続き，朝７時頃から夜11時頃まで，悪条件と戦い，健康上よくないから休めと医師から再三注意されました。しかし休んだら遅れます。周囲の暖かいご理解があっての我が儘一杯であったと振り返る次第です。

当時の制癌剤の開発では，大抵の場合に発癌性が付随しました。こんな迷いの中で，文通していたG.H.Hitchingさんが核酸類縁物質で有効な制癌剤を創製しノーベル賞を受賞されたのはかなり後です。この関連の基礎研究の副産物的に新規合成したサルファ剤８種は全て有効でした。４年の女子学生が成し遂げたのです。

人類の幸福を願う合成化学の発展の為には分析化学の発展が必要だと気付き，物質分離について努力しました。新たに分析関係の書物を買い込んで初めから勉強し直しで，学会発表も初陣です。古い装置をゆずり受けて，また，早朝から深夜までの測定を続けました。その道のL.R.Snyderが9.8ｍのカラムで分離した混合物を0.6ｍのカラムで分離に成功し自信をもてました。東京，京都，大阪などで講演した際の聴講者は新型の装置を使って，当方は旧式で，考え方だけが頼りでした。「田舎で出来ること」を考えるのは無念でした。

昭和46年春に教育学部理科に転出して今日までお世話になりました。地元でカドミウムの骨形成への影響が心配され，閉鎖系での研究法として骨の組織培養による研究方法を考案し共同研究者を得たのは幸いでした。

また，富山県理科教育研究会は全国でも熱心なことで有名で，参加させて頂きました。時代の変遷に拘らず義務教育・高校教育の重要性は大きく，教育学部の使命も益々重視されねばならず，大学・大学院教育との一貫する発展を期待します。

考えた何分の一しかできず，勉学と努力不足によると反省しております。富山大学では素晴らしい学生が多く，随分無理を聞いてもらい苦労させて申し訳なく思います。社会に確かな貢献を，そのような人材の育成を願って参りましたけれども。

長い間お世話になり本当に有難うございました。富山大学の着実な発展を心からお祈り申し上げます。誠実で実力ある学生が育つように願ってやみません。

退任に当たって

教育学部教授　北　林　吉　弘

わずか4年余りの短い期間でしたが，本当に楽しいものでした。60才からの勤務は決して容易なものではありません。最後に病気になり，学生の皆さんに大変ご迷惑をかけてしまいました。しかし，どうにか3月までやりとげることができたことを本当に嬉しく思います。とくに4年生のみなさんは，田上先生のもとに，本当によく頑張りました。しかも全員がワープロによる卒論を仕上げて提出されました。こんなことは今年が初めてのことと思います。しかし，残念なことに今年の就職は思うようにゆかず，特に教員の就職はほとんどありませんでした。どうかもう一度受験する覚悟で来年に向けて頑張ってほしいと思います。また，一般就職を目ざす方々はその道でしっかりやってください。教育学部を出た人は流石によくやるといわれるように頑張って欲しいものです。公務員を目ざす方々は，その道で地理を生かして下さい。警察，郵便，地方自治体など進む道はちがっても地理学の応用ですから，きっと役に立つことでしょう。どうか体に十分気をつけて，一生懸命に頑張って欲しいと思います。

私の研究生活を振り返って

経済学部教授　鰯澤（いなざわ）晃三

思えば，鹿児島経済大学（旧鹿児島高商）から富山大学に着任して既に22年の歳月が流れ去りました。昭和47年３月末，いまだ，みぞれの降りしきる富山駅ホームに脳血栓で倒れた母を背負いながら下り立った時の感慨はひとしおでした。今は亡き教育学部の大塚助教授ほか数人の先生方が救急車で待機していて下さって，すぐさま市民病院へと急いだことなど懐かしく思い出されます。朝鮮から引き揚げ以来，博多，東京，鹿児島，富山と転々移寓の人生ですが，富山は今や単に居住年数の長さだけでなく，私の生活実感からしても第二の郷里となりました。また学問上では，やはり東京での大学院および助手時代の勉強が土台になっておりますが，とりわけ，当時，経済学会では世界的に著名であった理論経済学の柴田敬先生，経済思想史の難波田春男先生，数理経済学の久武雅夫先生などから講義やゼミや研究会などで直接ご指導を賜わり，経済社会についてのお考えや学問的接近手法について学ばせて頂いたことは，その後の私の生涯をかけての研究内容を基礎付けるものとなりました。

ところで，私のこれまでの長い経済学研究の経過を簡単に述べさせて頂きますと，鹿児島経済大学時代は，スミスやリカードにはじまる古典派の諸理論とマルクス体系を出来るだけ忠実に，現代的な原理・公準・法則をふまえながら数学的に無矛盾的なモデルに構築し，それによって各理論の特性と問題点を摘出したり，相互に比較検討することで明け暮れました。また富山大学教育学部に経済原論の担当教官として赴任してからは，ワルラスやマーシャル，あるいはボェーム＝バヴェルクなどに代表される近代経済諸学派の諸理論およびケインズからミルトン・フリードマンに至る現代経済諸理論のモデル化と，それによる上記目的の追求が主な仕事になりました。そして，大学院が設立されるということで経済学部に移籍してからの目標は，これまで及ばずながら私なりに構築してきた諸モデルと，それを生み出した各時代の経済的背景を統一的に展望することによって，現代経済の基本的機構とその歴史的性格を考察し，そこから基本的にして現実的な政策提言が可能になるような統一的視点を摘出することでした。なお，これらのモデルの一部は私が文部省の在外研究員としてロンドン大学に留学したとき，有名なマーク・ブローグ教授からも種々のアドバイスを頂戴することができました。

なお，この度，誠に有り難いことに，経済学部から私の退官記念論集を出版して頂けることになりましたので，甚だ拙い内容ではありますが，長年にわたる上記の研究の結果を要約して記載させて頂くことに致しました。研究者としては誠にこの上ない喜びです。最後に，伝統ある富山大学経済学部および同大学院の発展を心から祈念して退官のご挨拶と致します。

富山大学に思う

理学部教授　小　嶋　　學

第二特集「大学　ここが良い　ここが悪い」とからめて，退官にあたり，何か思うところを書けとの編集子からの御依頼をうけたが，はたと私は困った。急にそのようなことを言われても，何も思い当たらないのであった。何も思い当たらないということは，富山大学には何も悪いところはなく，私にとっては，丁度，空気のような存在であるということになろうか。実にぴったり，私そのものになりきっていて，富山大学の存在感というか，富山大学に対する異質感というものを感じなくなっているせいではなかろうかと，いうことになる。そういう意味では，私にとって，この13年間は，本当にあっという間に，本当にあっという間に過ぎ去ってしまった感がある。しかし，私にとっては，あっという間の13年間であったかもしれないが，その間，二回ヨーロッパに出張したり，また，合計５年間にわたって学外の会議のため頻繁に研究室を留守にしたりして，関係の諸先生方特に所属講座の先生方を始めとして，学生諸兄諸姉には大変な御迷惑をおかけしてきた。そして，実際は何一つ文句もいわれず，暖かく見守り自由に行動することをお許しくださってきた。先程，私は，富山大学は私にとって空気のような存在であると，いい気になって書いたが，それは私の思い上がりであって，実は，私の周りの方々の御協力の御蔭があったればこそのことであったのである。私は，富山大学の内にあっても外にあっても，いつも富山大学という大きな掌の上で，のうのうと過ごさせていただいていたことに，初めて気付いた。そして，今は，富山大学は私にとって空気のような存在であり，善意にみちあふれた方々のおられる，実に寛容でおおらかな良い大学であるというふうに，言いかえるべきであると思っている。

私は正直いって，富山へきて幸福だったと考えている。それは，富山大学が上述のような良い大学であったということ共に，良い自然環境にめぐまれているためである。私達の実験材料であるウニは，車で一時間ちょっと走った海岸で容易に採集できるので，こんな好都合はなかった。元来，山が好きな私にとって，こんなに嬉しいことはなかった。うす紫色にかすむ薬師岳から立山を経て剣岳へと連なる稜線をシルエットとして，濃紺の空をほのかな淡紅色から橙色に変え，そして，突如，光り輝く黄金色に染めて昇ってくる朝日を眺める感動は，なにものにも代え難いものであった。一方，私が驚いたことは，富山の雪は一生懸命降るということであった。富山の雪は霏霏として降るというより恣肆として降るといった表現のほうがふさわしいほど激しい降り方で降ることである。窓越しに見える教育学部の建物が，あたかも天から傾れ落ちてくるかのような雪片によって見えなくなる程の降りざまに，感嘆し，言葉もなく，ただひたすら立ち続け見続けたことが何度あったことであろう。そして，雪が降りやんだ後の教育学部のパステルカラー調の建物を，私の大好きなユトリロの描くモンマルトルの雪景色と重ね合せて眺めていたものであった。

最後に，改めて，この13年の間，暖かく見守っていて下さった諸先生方，学生諸氏，および，事務の方々にこころから御礼申しあげるとともに，富山大学の益々の発展を祈念してペンを擱きたい。

工学教育に携って

工学部教授　大　岡　耕（たか）　之（ゆき）

私の手元に灼熱した鉄の粒子で点々と傷ついたコバルト色眼鏡がある。この眼鏡には40年前，生産の第一線に立った鉄鋼技術者としての万感の思いがこめられている。

昭和３年生まれ，戦中派の殿（しんがり）である私が体験した世代の一つの姿を皆様に紹介して，お別れの挨拶としたい。

昭和20年８月20日，17歳陸士61期将校生徒の夢破れ，品川発故郷九州に向かう復員列車の車窓から眺める潰滅焼土と化した広島等沿線諸都市の姿は悲惨であり国土再建の一翼をと，技術者できれば鉄鋼技術者たるべく車中深く決意した。そして昭和28年４月（旧）京大工・冶金科卒業後，八幡製鉄（現・新日鉄）に入社し同９月製鋼部第一製鋼工場で副監督として三年間の三交代勤務についた。当時の三交代勤務は三組の作業班が甲（６：00～14：00）乙（14：00～22：00），丙（22：00～６：00）番を一週間勤務で交代し，番の交代はまず甲番勤務者が日曜日に甲・乙連続して16時間勤務し，土曜日の乙番は日曜日の丙番と逐次番を交代した。学卒副監督は実質には見習いであり，一年後に10～20年の熟練作業者を指揮して正監督としての重責（生産・安全）を果たしうる実力――生産の流れの中で待ったなしの帰納思考力――を身につけねばならず体力には自信があったが緊張と不安の毎日であった。

戦後長く低迷していた日本鉄鋼産業の主力工場である八幡製鉄（株）は昭和26年より学卒の採用を始め，因みに第一製鋼工場（課）ではＳ．26年東大Ｈ氏，Ｓ．27年九大Ｏ氏，Ｓ．28年京大ＯＯＫＡ，Ｓ．29年新制東大Ｋ氏，Ｓ．30年新制京大Ｎ氏……，また同期入社では第二製鋼Ｓ．27年東北大Ｏ氏に続き阪大Ｍ氏，第三製鋼東大Ｎ氏，第四製鋼新制京大Ｙ氏等の諸氏が戦後の技術者と人事の断層を補強すべく各工場に層厚く配属された。

さて，北九州の冬は寒く４時半起床して砂噛む思いで朝食を流し込み満天の星空のもと玄海の寒風に頬を凍らせて入門する甲番勤務は辛く，夏の丙番は日中殆ど眠れず注意力散漫となり起重機行き交う慣れない現場では一度ならずの危険に慄然することも度々であり，事実この時期学卒監督の尊い犠牲もあった。さらに酷暑の季節には平炉精錬を指導し，ホイッスルを口に取鍋を移動させ炉体を傾動してコバルト色眼鏡を通して至近距離から白銀色に踊る1700℃の溶鋼が２～３杯の70ｔ取鍋に収まるのを確認すると汗とほこりで下着まで濡れるが炉前の大扇風機で全身に風を入れる壮快さは責任を果たしえた自信と満足感で20歳半ばの若さのみがなしうるコバルト色眼鏡の中の青春として終生忘れ得ない体験であった。入社早々の未経験者に生産の大きな責任を与え得たのは旧官営製鉄所の度量と信頼であるが，同僚学卒監督と励まし合いその期待に応えた事を誇りに思っている。

この後，私は研究開発部門に転ずることになるが縁あって昭和57年２月以来，本学工学部金属工学科教授として12年２カ月にわたって後進育成の機会を与えられたことは望外の喜びであり，この間私の研究室を巣立った修士学生は外国人留学生４名，および京大，九大博士課程進学各１名を含む39名（他に外国人留学研究者１名）に及び，73名の学部卒業生諸氏ともどもの産業界での活躍と本学の発展を心から祈念する次第である。

私の研究室

人文地理学の華麗なる面々と研究室

（人文学部）

'93年度　第1回大阪巡検にて
前例右側は水内先生

人文学科3年　**飯　田　勝　祥**

人文地理学の研究室はとてもアットホームな雰囲気である。単に研究の場としてだけでなく，学生と教官との相互交流の場ともなっている。ここでは筆者から見た先生像によって当研究室の紹介をするが，それでそのアットホームな雰囲気を少しでも感じ取ってもらえれば幸いである。

水内助教授：関西人で関西弁を使う。いつの間にか人を「その気」にして実行させてしまう，ある種のパワーをもっているが，行き過ぎてしまうことも度々ある。フィールドワークは先生がほとんど率いる。特徴であるヒゲは，以前トルコに行ったときに生やし始めたものらしい。滑川市をフィールドワーク中，そのヒゲゆえに通りすがりの人に「変な外人」と間違えられ，ショックを受けたという。

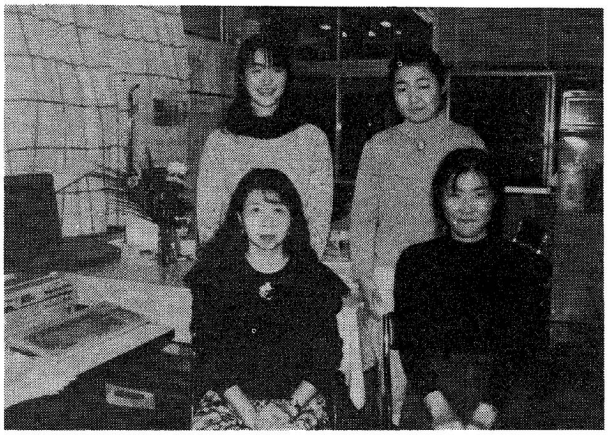
溝口教授：とにかくとても若く見える。水内先生よりもちょっと年上かな，ぐらいに見えるのに，実際にはむしろ浜谷先生とのほうが年が近い。この夏まで一年間，アメリカのＵＣデービス校で研究をしていた。その間にＭ助教授と我々三年生が先生の予算を使ってしまっていた（らしく），悲しい思いをしたらしい…。授業ではその生活体験を基に，いろいろ楽しくてためになる話しが繰り広げられる。毎年春と秋に開催される人文学部恒例のソフトボール大会では，貴重な戦力として期待されているのだが，ここ最近は忙しくてその活躍が見られない。

浜谷教授：授業では英文の訳し方や文章の書き方，果ては句読点のうち方に至るまで，厳しく細かくチェックを入れられる。それが，研究室の雰囲気が馴れ合いになるのを防いでいる。最近ではあまり聞取り調査などには出向かなくなったが，東京のある風俗歓楽街を女子学生二人と共にフィールドワークしたとき（もちろん授業で，である）「娘を身売りにきた親の心境」と言って，そこをひたすら突っ切って歩いたというエピソードが残っている。学生部長になり連日忙しいが，学生との交流には積極的に参加してくださる。あるいは，何を考えているのか理解に苦しむ我々のことを，どうにか理解しようとしているのかもしれない。

ちなみに写真は本年度の県外巡検で大阪をフィールドワークした際のものである。こうした作業のように，協力して物事を実行することは地理学をいっそう楽しいものとしている。これもまた，アットホームな雰囲気を創り出している一つの要素なのである。

神川研究室

（教育学部）



中学校教員養成課程
家庭専攻　4年　**田　口　晴　美**

その研究室は教育学部第２棟３階に位置している。周りには食物や被服という家庭科といえばなじみ深い研究室が並んでいる中で，私達は家庭管理研究室という看板を掲げている。

戸を開けて中に入ってみると，そこには家庭的なほっとする雰囲気の中にも毅然としたものがあり，勉強するにはなかなかの環境である。そのせいもあって，研究室で半住み込み生活をしているものが１名程いるが，彼女は寮生なので刹那の一人暮らしを楽しんでいるようである。

研究室を見渡すと少し色あせたコンピュータが顔色を変えずに座っている。しかし最近，わが研究室が研究テーマとしている睡眠と老人介護のデータ処理に毎日大わらわである。コンピュータがかなりお年を召しているので，処理能力はあまり早くないけれども，不言実行かつ着実に仕事をしてくれるコンピュータの存在は，とても貴重なものである。

私達の研究テーマは社会・生活環境との関わりが深いため研究を深めるほど，社会への視野が広がり，興味津々と研究に携わることができる。

先生の部屋の電気がついた。先生が来られたようである。担当教官である神川先生はいつも清楚な装いで私達の目を楽しませてくれる。見かけは小柄で学生と変わらない可愛らしさであるが，内からあふれる幅広い趣味と教養には全く感心させられる。また，気さくな先生なので「先生」というよりは「頼れるお姉さん」という感じである。

研究室の戸が二度開き，もう二人もやってきた。そう神川研究室の学生は３名。３人とも向上心が強く，互いに励まし戒め合い，相乗効果を生み出しているようである。

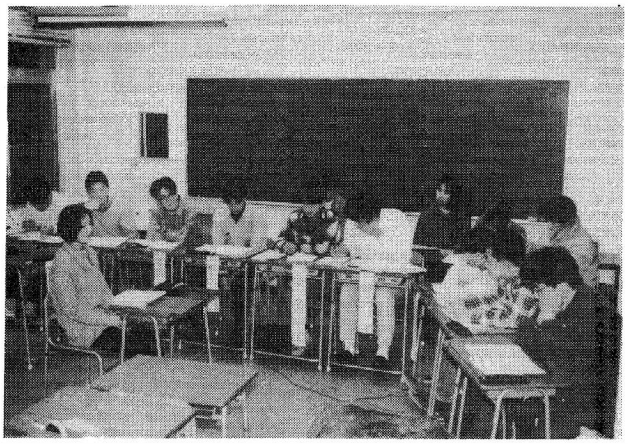
カレンダーによると今日は水曜日。明日は家庭科専攻で構成しているバレーチームの練習日である。わが研究室にはキャプテンとマネージャーがいるため，そのチームワークは天下一品である。卒論でストレスがたまりやすい中，週一回のバレーボールは皆の心にやすらぎを与えているようである。

３年生を覗いてみると，うらやましいことに男子学生はいるし，ドイツの教育大学に留学している人もいる。来年はもう一人，男の先生も来られるらしい。さらに大学院も設置され，新たな縦のつながりが生まれるであろう。時代と共に家庭科の雰囲気も変わってゆくのだと感じる。

いつの時代でも人間は現在よりもよりよい生活を送りたいと願っている。その生活の一助となるよう研究しているのが我が研究室の特徴ではないだろうか。

角森ゼミ

（経済学部）



経営法学科
4年生　**丹羽信暁**

僕の所属する角森ゼミは，模擬裁判を行いながら民法と民事訴訟法を学習する，現在，4年生8名，3年生10名の合同ゼミである。全員が原告側，被告側，裁判官の3つの班にそれぞれ均等に分かれて模擬裁判を進めている。事件の難しさにもよるが，年に1，2件の事件（地上げ屋による土地明渡請求事件，ゼミ学生に対する資金返還請求事件など）しか扱えない。その事件に関連する判例や学説を調べた上で訴状や準備書面を作成し，口頭弁論と証拠調べの用意をしていると，いつのまにか半年が経過してしまうのである。翌週の準備をするために，原告側，被告側は，それぞれ放課後に集まって相談をする。と言っても，ただ雑談しているときもあれば，昼の12時から夜の11時過ぎまで真面目に？相談することもある。今，僕は被告側弁護士を演じているが，むざむざと負けたくはないので，証人尋問の際，ときには喧嘩ごしになるほど熱くなる。攻撃される証人は緊張して大変である。しかし，みんな役者揃いで，芝居を見ているような錯覚？？を起こす。富山弁や関西弁まるだしの者もいるが，まあそれも味があっていいだろう。

勉強ばかりしているかといえば，そうではない。表向きには親交を深めるため，実際は安息の場を求めて（といえば聞こえはいいが，遊びのために演習時間を潰しているだけ？），ボーリング大会，スキー合宿，コンパなどを行っている。たいがい高い出席率である。先生は以外とノリがいいし，息子を連れてくることも度々あり，子煩悩である。また，今年は3年生の女の子が4人も入ってきて，キャッキャッとちょっと騒々しいのが，明るい雰囲気をつくっている。昨年は女の子が少なくて，証人のホステス役を男が演じた（やたら声が低く，肩幅の広いホステスだった）が，今年はどこから見ても女の子らしい女の証人役を出せることが喜ばしい。

全体として言えるのは，先生も含めて皆仲がいいということだ。そうでなければ模擬裁判を進めることはできないだろう。1月下旬には公開模擬裁判を控えているが，プレッシャーを感じている者もなく準備を進めている。2年生の人にはぜひ見に来てもらいたいし，4月からは角森ゼミに数多く参加してもらいたい。やさしい先輩？？が虎視眈々と待っている。

理学部数学科大学院第１研究室

（理 学 部）

理学研究科数学専攻　**金　崎　　亨**

A「私の研究室というテーマだけど，何を話せばいいかな」
B「いつもやってることでいいでしょう」
C「例えば？」
D「１日の過ごし方とか」
E「Ｍ２の方は大変そうですよね」
C「大変だよ」（本当か？）
A「１つの研究室でも同じテーマをやってるわけじゃないからまとめようがないよね」
B「だからあまり研究室で数学の話はしないよね」
D「お互いに相談できないしね。みんなでやることといったらウノかな」
C「確率論の人が強いはずだけど・・・」
D「人間性の問題だと思うけど」
B「このところ敗け続けだから夕食ぬきになってしまうぞ」
E「最近Ｄ君は研究室でウノしかしないな」
C「勉強はいつやってんの？」
D「基本的に家でやってる」
A「家で勉強してる人がけっこう多いな」
B「ずっと姿が見えない人もいるくらい」
D「個室じゃないから気が散るんじゃないのかな」
B「１部屋に６人じゃちょっとせまいね」
E「クーラーがあるといいな」
D「パソコンも！」
A「欲を言ったらキリがないし，部屋があるだけましだよ」
E「研究室は２つあるけどそれぞれ雰囲気が違いますね」
A「こっちはコンピューター好きばかりで，向うはテニス好きばかりか」
C「くじ引きで決めたのに見事に分かれたよねえ。多少の例外はおるけど」
D「女の子も２人が分かれてるし」
B「偶然は恐ろしいな」
A「その辺は確率論の人が詳しいだろう」
D「また僕か。集中攻撃じゃないか。でも結局確率は１／２だけどね」
A「それではそろそろまとめに入るか」
D「どうまとめるんだ？」
B「ウノでもしながら考えるか」
E「そうですね」
C「うわっ！ ひどすぎる敗け方だ」
A「何か考えてなかったけ？」
B「何を？」

ようこそ僕らの研究室へ

機械システム工学科強度設計工学Ⅱ研究室
（工 学 部）

能登半島一周ゼミ合宿において

機械システム工学科４年　**田　中　正　昭**

僕らの研究室は修士課程生，留学生を含む13人の男子学生と塩澤教授，西野講師，友坂技官の仲間が所属する，男臭い，油臭い研究集団です。昨年までは修士課程に女性中国人留学生が在籍していたようです。女性に人気のない研究室ではありません。機械システム工学科の４年生に女子学生がいないだけのことです。

僕らの研究室では，航空機事故や原子力発電所の事故でマスコミを賑わせた金属疲労の研究を中心に行っています。研究の大きな柱は①省資源，省エネルギー，環境保全のための軽量化技術・設計の確立，②宇宙，海洋開発，エネルギー開発のための苛酷環境への挑戦，③高齢化機器社会に対応した寿命予測と寿命延伸技術の確立，の三つであるとゼミの時間に説明されましたが，残念ながらまだ十分に理解できていません。僕の行っている研究を簡単に説明してみます。航空機，深海潜水調査船，宇宙ロケット，もっと身近には眼鏡フレームやテニスラケットに使われているチタン合金に引張りの繰返しを与えて実験を行い，疲労破壊のメカニズムを明らかにしようとしています。硬くて強いと思っていた金属がいとも簡単に壊れる現象をまのあたりに見て驚くばかりです。眼鏡フレームも疲労で壊れることがあると聞いてびっくり…，研究の重要性を改めて認識しているところです。このほか研究室の仲間は鉄鋼材料，アルミニウム合金，セラミックス，金属基複合材料などを対象に引張ったり，捻ったり，曲げたりしています。実験の過程ではいろいろな試験機，観察機器を使い，コンピュータを駆使したデータ解析を行うので，とても興味があり新しい多くの知識や技術が身に付きます。

お堅い話はこれくらいにして，研究室の生活と仲間の話をしてみます。研究室内は留学生の中国語，最近アメリカのホームステイから帰国した仲間の下手な英語，そして富山弁，金沢弁，名古屋弁，関西弁，さまざまな言葉が飛び交う，明るく，楽しい雰囲気の遊びの場，研究の場であり，協力し励まし合う，団結心の強く頼りになる仲間の集まりです。

研究室は新歓コンパに始まり，夏恒例のゼミ合宿，学期の区切りでの飲み会，忘年会，新年会等々頻繁に飲み会などが催されます。「学生の学生による学生のためのコンパ」が僕らの研究室のモットーであり，全て学生主体により開催され趣向を凝らします。皆童心に返って騒ぎ，普段の緊張はなく，先生方と夜遅くまで語り合い，普段できない質問も飛び出し，酒の飲み方，人生観，女性観など研究では得られない知識を吸収し，楽しい学生生活の思い出が蓄積されています。

以上のように，僕らの研究室はとても明るく，楽しい研究室です。また，多くの知識や技術を学ぶことのできる研究室でもあります。僕自身，この研究室に所属したことで今まで以上に充実した大学生活を送っています。研究室がやみつきになって卒業するのが辛いって…？ いやいや，肉体疲労を起こさないように研究に励み，立派な金属疲労の卒業論文を仕上げ，これまでのさまざまな知識をもとに社会で大いに羽ばたく所存です。

留学生コーナー

海外旅行を計画の学生のために

最近，海外において事件・事故に巻き込まれる日本人が増加しています。本コーナーは，今後，海外旅行等を計画している学生諸君が，安全で楽しい旅行をするために必要なトラブル防止のポイントについて書かれたものです。熟読されるよう希望します。

Ⅰ　旅行計画を立てる際の留意事項

1．危険なところへは近づかない！

世界には治安情勢が悪く旅行には適さない地域や外国人の入域が制限されている地域がたくさんあります。（外務省が発出している渡航自粛勧告等の情報を参考にしてください。）

行き当たりばったりの旅行ができるのは日本だけです。行き先の情報をできるだけ集めて“危険なところへは近づかない”という前提で旅行の計画を立てることが必要です。（また，突然の内乱や騒擾事件の発生もあります。出国前だけでなく，旅行中も十分な情報収集を心掛けてください。）

2．パスポート，ビザの要否の確認！

滞在目的にあった旅行先国の入国ビザを取得することが必要です。（一定の期間・目的の滞在に対してはビザの取得を免除している国，短期間の観光目的に限ってビザなしで入国を認めている国もあります。）また，国によっては，入国の際（あるいは，ビザ取得の際），所持しているパスポートに一定の残存有効期間がない場合，入国（あるいはビザの発給）を拒否することがあります。確認しておくことが必要です。

3．十分な情報収集を！

旅行先の国・地域で多発している犯罪の手口・防犯対策，また，日本人が巻き込まれやすいトラブルに関する情報，例えば

①入国時の外貨申告制度，国内の写真撮影禁止区域などの法令・規則に関する留意事項

②宗教等に関する現地の風俗・習慣・国民性などの留意事項

③衛生状況等の健康上の留意事項

などの情報を十分に収集しておきます。

各国別の詳しい情報等を知りたい方は，外務省監修「海外安全ハンドブック」（トラベル・ジャーナル刊）をご参照ください。

- 北米・中南米編　1,200円
- ヨーロッパ・アフリカ編　1,400円
- アジア・オセアニア・中近東編　1,300円

4．目立つ服装・振る舞いをしない！

旅行者はその土地に不慣れであるため犯罪

を仕掛けやすく，また，現金等金品をもっている確率が高い（特に日本人は）と思われています。

さらに滞在が短時間なため警察等に届け出ることが少なく，仮に届け出ても直ぐに帰国してしまうためその後の処理ができないことから，犯罪者の絶好の標的となっています。一目で旅行者と分かるような服装，振る舞いは避け，現地に溶け込めるような旅行の計画を立てることが必要です。

5．万一に備えて海外旅行損害保険！

トラブル防止のために万全の注意をしていても，事故や事件に巻き込まれることを完全に排除することはできません。

物損の補償にとどまらず，病院の診療費や緊急移送費も補償されるようなサービス範囲の広い保険に加入されることをお勧めします。

6．旅行スケジュールを日本の家族に渡しておく！

海外旅行中，特に単独旅行をしている場合，自分の居所は自分にしか分からなくなります。旅行中に日本から緊急に連絡しなくてはいけないことが起きることもあります。また，旅行予定地としていた近辺で大規模事故・事件が発生した際，あなたの安否を確認するために必要ですから，旅行スケジュール（日程，宿泊先等）は必ず家族にコピーを渡しておくようにしてください。

また，海外旅行中，日本の留守家族は思いのほか心配しているものです。こまめに連絡することも必要です。

Ⅱ　旅行中の留意事項

1．貴重品の管理は確実に！

パスポート，航空券，現金，トラベラーズチェックなどの貴重品は確実に管理しましょう。最近は，パスポートの盗難が急増していますので，特に注意してください。（パスポートは個人が管理するものです。パスポートの重要性を再認識しましょう）

〔対　策〕

現金の所持は極力避け，貴重品類は部屋に置かず，必ずホテルのセフティー・ボックスに預ける。パスポートは（常時携行することを求められる国，地域を除いて）できる限り携行せずにホテルに預けておき（パスポートのコピーを携行するようにするとよい），携行する場合も金品とは別に身につける（貴重品類は，一つにまとめず分散して所持することが大切）。最も安全な携行方法は，外から分からないように袋に入れ紐で首からシャツの下に吊すか，シャツの内側に作ったポケットにいれる方法。

また万一，パスポートを盗まれた時に備え，パスポートの番号，発行年月日等を控えておき，パスポート用の写真（2～3枚）を携行しておくとよい。

2．盗難等の予防に細心の注意を！

(1)　置き引き・スリ

被害数が一番多く，被害地域も従来からの要注意都市に加え，一般に治安が良いと言われている都市まで広まり，世界各国に及んでいます。

話しかけたり，服にケチャップをつけたり，コインをばらまくなどの手段で注意をそらせ，その間のわずか数秒で財布をすり取ったり，鞄等を置き引きします。

〔対　策〕

手荷物はほんの数秒間であっても床に置かない。特に観光客が集まる場所（空港のカウンター・売店，駅の切符売り場・ホーム，構内，ホテル・ロビー等）では手から離さない。

レストランではバックは椅子の背に掛けたり，テーブルの上に置いたまま席を立ったりしない。

見知らぬ人から話しかけられた場合には，まず毅然とした態度で対応。所持品は手放さないようにする。

バス，地下鉄などの乗り物で，押されたり，触れられたりしたら，直ぐに所持品をチェックする。

(2) 引ったくり・強奪

旅行中，肩に掛けているバッグ，カメラ，抱えている手荷物を，オートバイあるいは車に乗った者に引ったくられる被害も，世界各地で多数見られます。

3～4人の浮浪者風のグループ（子供の集団，あるいは乳飲み子を抱えた女性を含むこともある）に取り囲まれ，新聞や段ボールの切れ端を押しつけられたり，ナイフ等の凶器で脅かされて所持品を強奪される被害もあります。

ホテルの自室にいるとき，ドアをノックされ，開けたところ押し入られるという強盗被害も発生しています。

さらに，強盗に伴う傷害，刺傷等の被害も発生しています。

〔対　策〕

引ったくり防止のためには，道を歩く際は，なるべく車道寄りを避け，また，荷物は車道側の手にもたないようにする。（車道とは反対側のビル等から手が伸びることもあるので注意。）
ウエスト・ポーチ，ポシェットのたすき掛けもナイフ等で切って引ったくられるので安全とは言えない。場合によっては，取り損ねて引きづられ大怪我をすることもある。（手荷物などに手を掛けられたら，守ろうとするとかえって危険なので，潔く諦めることが肝心。）
浮浪者風のグループを見かけたら，道を変えること。
ホテルの自室にいる時は必ず防犯チェーンを掛けておき，ノックされても不用意にドアを開けず，まず相手を確認。また，ホテルの従業員風でも安易に部屋に入れない。ただし，不幸にして強盗にあった場合には決して抵抗しない。

(3) 睡眠薬強盗，いかさま賭博，悪質タクシーその他の詐欺事件

面識のない人に勧められた飲食物に睡眠薬が入っていて，眠っている間に金品を盗まれるという被害が依然として多発しています。

また，日本のことを教えて欲しい等と巧みに誘われ家に連れて行かれていかさま賭博に巻き込まれる事件も発生しています。

悪質タクシーの被害は相変わらず世界各地で発生しています。

旅行先で知り合った人の優しさに対するほんのちょっとした気の緩みから詐欺事件にあう旅行者が増えています。

〔対　策〕

空港・観光名所等で旅行者に親しげに話しかける人，特に英語・日本語を話す人を軽々しく信用しない。危ないと思ったら臆せずにはっきり「ノー」と言う。（日本人旅行者は見知らぬ人でもすぐに信用してしまうと言われている。）その人の家や部屋に行ったり，自分の部屋に入れたりするようなことは厳禁。

3．麻薬には絶対に手を出さないこと！

麻薬に対する取り締まりは，国際的にもますます強化されてきています。国によっては，終身刑・死刑等の厳刑の対象となっています。麻薬を所持しているだけで罰せられる国はたくさんあります。

ほんのちょっとした好奇心から安易な気持ちで麻薬に手を出し，異国の刑務所で長期間無為に過ごすことを余儀なくされることがないようにして下さい。

また，その気がなくても麻薬犯罪に巻き込まれることがあります。例えば，麻薬所持に関する密告に対し報奨金を払う国がありますが，麻薬の売人が密告者だったり，麻薬を“高級茶”等と称して売りつけたり，麻薬が入った荷物を素知らぬ振りをして預けたり，他人のリュック等の荷物に麻薬を紛れ込ませたりして，密告するという事件が発生しています。十分留意することが必要です。

〔対　策〕

絶対に手を出さないことはもとより，自分が望まずとも麻薬取引に巻き込まれる危険のあることを肝に銘じ，麻薬の取引が行われやすい歓楽街等には近づかないことが肝要。
興味本位で何か分からないものに手を出したり，また，あまり面識のない人から荷物を預かったり，その人を自分の部屋に入れることも厳禁。

4．交通事故に注意！

世界的に交通事故は増加しており，また，海外でも気軽にレンタカーを利用できるようになり，日本人の交通事故による死亡も増えています。

〔対　策〕

道路事情が悪い国も多く，交通規則を守らないドライバーが多いことを頭にいれて国内以上に慎重に運転する。（シートベルトは必ず締めること。）

現地に行く前に現地の交通法規，交通事情は十分に調べておくこと。

また，イザという時に備えて保険には必ず加入すること。

5．健康に留意！

旅行中は体調をくずしやすいもの。折角来たのだからと無理をすると，現地の風土病を呼び込んでしまったり，遊泳事故を引き起こしたり，注意力が散漫になるのか，スリなどの被害にもあいやすくなります。

〔対　策〕

生水，生物は控えて，衛生面に十分注意。具合が悪ければ，まず休養をとって，場合によっては，現地の病院，医者に相談する他，加入している海外旅行傷害保険のアシスタンス・サービスを利用する等して，健康の回復を図ることが大切。

※　　※　　※

万一，盗難にあったり，トラブルに巻き込まれたりした場合には，速やかに現地当局（警察等）に通報し，被害の届を出して受領書を受け取る（旅券の再発給，保険請求等に必要）とともに，近くの日本大使館・総領事館へ知らせてください。（紛失物が発見されたとき，大使館・総領事館に通報がある場合があります。）

大使館・総領事館では，出来る限り皆さんの力になってくれます。

しかし，何と言っても安全対策の基本は「個人の意識と努力」です。「自分の身は自分で守る」しか他に方法はないことを，くれぐれも忘れないで下さい。

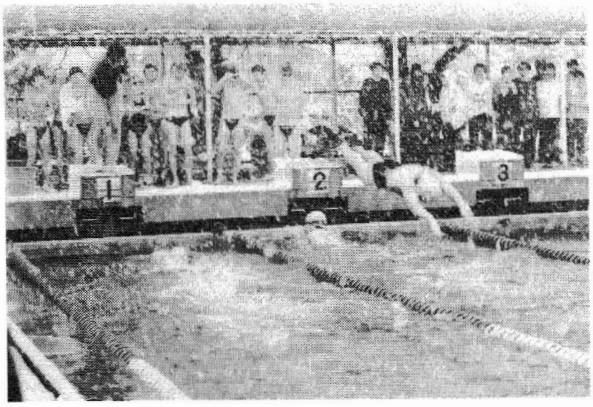
※　　※　　※

本コーナーは，「外務省邦人保護課海外安全相談センター」発行のパンフレットを参照・抜粋したものです。

トピックス

1994年寒中水泳大会

大雪の中
恒例の寒中水泳大会!!



去る1月22日（土）午後2時から本学のプールにおいて恒例の寒中水泳大会が，気温零下1度，水温0度，さらには吹雪という絶好（？）のコンディションの中で行われました。

開会宣言の後，浜谷学生部長が激励し，水泳部主将が檄文を読み上げ，応援団員がエールを送る中，水泳部員の果敢なリレーに続き，仮装姿の各サークル部員が次々飛び込み富大健児の心意気を示しました。

25mを泳ぎ切った学生達は，暖かい甘酒や豚汁をすすりながら冷えきった身体を毛布に包み温めていました。

最後に，水泳部員が肩を組んで部歌を合唱し，25回を迎えた今回の大会も無事終了しました。

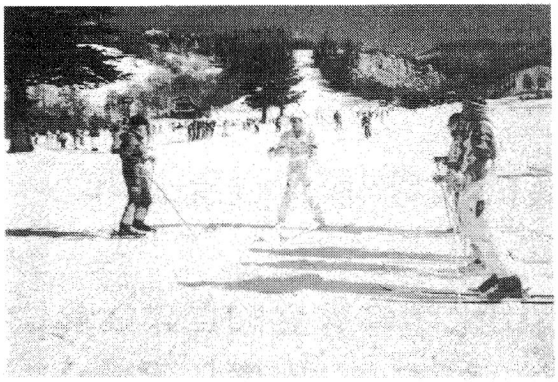
富山大学体育会30周年

富山大学体育会30周年式典に出席して想うこと

S40年経済学部卒
剣道部 苗加仁之

本体育会がここに30周年を迎えられましたことを心からお慶びいたします。先程，式典に際し初代委員長を務めさせていただいたとのことで，ご挨拶をさせていただきましたが，発足当時に比べ実に多くの運動部同好会の加盟による立派な組織に成長し活躍されているのを見て設立に携わった仲間達と，久し振りに会い，喜びを共にすることができました。ここで設立時の頃の状況と経過について記してみたいと思います。私はS40年入学と同時に剣道部に入部しました。当時の富山大学は旧制の各学校を総合した新制大学として歴史も浅く，通称「タコ足大学」などと呼ばれておりました。1～2年の一般教養学生は富山市岩瀬，薬学部は富山市奥田，工学部は高岡市，わずかに文理，教育，経済の各学部が富山市五福キャンパス，と分散していました。このため各部とも部員一同が一緒に練習する機会も少なく，また施設不足で練習場所もままならないという状況でした。学内組織としては各部の主将を中心とした運動部代表者会議が存在していましたが，各運動部の現状が前述の通りですので，「強くなる」「勝負に勝つ」「初心者を指導する」という基本的な活動が満足にできないというのが主将達の悩みの種となっていました。大学側においても五福キャンパスへの集中化方針により一般教養部・薬学部の移転，またグランド拡張・体育館新設と徐々にではあるがその内容が充実してきました。そうした中で運動部代表者会議の主将仲間からも各々の悩みをただバラバラに考えるのではなく，相互の連携を強化し問題解決のための組織づくりが必要との気運が高まり，活発な意見交換がなされるようになってきました。発足時，副委員長を務めていただいた，松山氏（教育学部，体育科，バトミントン部）の「体育会設立案」の提唱により，他大学の体育会の規約，活動内容等の資料集めにはじまり，体育科諸先生及び学生部の幹部の方々の御協力，アドバイスを得ながら，紆余曲折を経て「体育会設立」が実現できました。この設立の経過の中で「単に自分達の所属する運動部だけのための体育会であってよいのか？」とのテーマが重要な課題として論議され，結論として運動部のためだけの組織ではなく，全学的な組織として一般学生をも会員とし「スポーツ全体を考える」組織として設立，運営することに決定しました。この「一般学生も会員として組織する」点こそが，他大学にみられないわが富山大学体育会の特長となっているところです。とはいえ未経験，未熟さゆえの試行錯誤の連続でありましたが，役員の方々の情熱と協力によりどうにか任務を果たし後輩諸兄に引き継ぐことができました。その後30年を経て多くの役員の人達による工夫と努力が続けられ，このように立派な体育会に成長されているのを見て感慨深いものを感じます。しかし，組織の拡大とともに，また時流の経過による学生気質の変化等々，その時節における多くの課題，問題点が発生することと思います。役員の皆様には「スポーツを愛する同志」であることの原点に立って，熱意と情熱をもって力強く組織の運営，拡充に奮闘されんことを心から期待するとともに「富山大学体育会」の今後ますますのご発展を祈念いたします。

スキー講習会（在来生合宿研修）を振り返って



体育会事務局　工学部物質工学科
2年　**渋　田　知　昌**

スキー講習会へは，昨年，今年と２度参加しました。今年の参加人数は，昨年よりも，ずっと減って，50人でした。行く前まで，こんなに少なくて楽しめるのだろうかと少し不安な思いでした。志賀高原につくと，昨年のように雨こそ降っていませんが，天候が悪く，なんでまたこんな天気なんだと思っていました。そして班分けをすると，なんと，昨年と同じE班になってしまったのです。昨年上手くなったと思ってたのに……。しかし，嫌だなーと思っていたのも，ここまででした。

次の日の朝，ものすごく良い天気で，雪質もすばらしいものでした。この時，昨日思っていた嫌な思いとは反対に，やっぱりスキー講習に来て良かったと〝ゲンキン〟な私は思ったのです。そして，それから３日間このすばらしい天気は続きました。講習第２日目の午前は，サングラスをしなくて目が雪目になるくらいの良い天気でした。講習第１日目の朝，外に出た時，スキーでふむと雪がキュッ，キュッと鳴るのです。富山にはない雪なのでとても驚きました。天候・雪質に恵まれ，講習は昨年よりもずっと楽しいものとなりました。私は今年の講習の初日の午前に，昨年結局マスター出来なかった滑りを出来るようにもなり，スキーの楽しみも教えてもらえて，本当に素敵な講習会であったと思います。最後の日に行った奥志賀が特に良かったです。班員全員が思わず「帰りたくない」と言ったほどでした。ゴンドラで上がり，今までに滑った事もないくらいのロングコースでした。最後に滑った時は本当に楽しみながら滑り下りて来ました。帰りはバスを使って戻って来ましたが，やはり疲れていたのか，寝不足か，思わず寝てしまいました。

講習も良かったのですが，演芸会もまた楽しみました。今年は５つだけでしたが，各班とも大いに笑せてくれました。私たちの班はタイム・オーバーで，得点ではたぶん２位のはずなのに，実際には下から２位になってしまいました。それが少し，いや大いに残念でした。

そして，最も心に残った出来事といえば，最終日のタイムレースです。このタイムレースでなんと私は，中級女子１位となり，中級Ⅰの敢闘賞をもらったのです。このタイムレースというのは，コースがあって，そこにポールが何本か立っていて，そのポールの間をぬけて滑って行き，タイムを競うレースのことです。２つのコースがあり，２人同時に滑るのですが，毎年コースによって，差があるとかで，今年は２度行われる事になっていました。一度滑ったら，リフトではなく，自分であがらなくてはならないので，この２度やる事には反対だったのですが，２度目で良いタイムが出たので，来年も２回やってほしいと思います。敢闘賞でトロフィーをもらったのですが，私は初めてもらうトロフィーだったので，すごくうれしかったです。

本当に全体を通して良いスキー講習会となったと思います。来年は３年生になっているので，参加も難しくなると思いますが，ぜひなんとか参加したいと思っています。

学生部だより

平成５年度富山大学学位記等授与式について

〔旧卒業式〕

平成５年度富山大学学位記等授与式が下記により挙行されますので、卒業生及び修了生は出席してください。

日　時　　平成６年３月25日（金）　10時30分
場　所　　富山市公会堂
式次第　　(1)　開式の辞
　　(2)　学位記等授与
　　(3)　学長告辞
　　(4)　閉式の辞

下宿等の紹介方法について

担当　厚生課厚生寮務係

自宅外通学の学生への下宿，アパート，貸間などの紹介は，富山大学生活協同組合（以下「生協」と略す）で行うことになりました。

大学周辺の下宿等を網羅した「下宿・アパート情報」のパンフレット等で希望する下宿等を選び，生協の担当者と相談のうえ決めてください。申し込み受付は，生協２階事務室で行っています。

なお，部屋代等については，地域，建築年数，間取り，付帯設備などにより若干の開きがありますが，平均的な料金は次のとおりです。

種別 ＼ 広さ	部屋代		
	自炊，トイレ，バス共同	自炊，トイレ，バス付	ワンルームマンション
４．５畳	10,000 ～ 15,000	――	――
６　畳	15,000 ～ 25,000	30,000 ～ 35,000	35,000 ～ 40,000
８　畳	20,000 ～ 30,000	35,000 ～ 40,000	35,000 ～ 45,000

（注意）生協においても，料金その他必要なことについて，トラブルが生じないよう配慮していますが，各人が契約内容を確認のうえ，契約書を取り交わすようにしてください。

平成６年度前期分授業料免除・納付猶予のお知らせ

平成６年度前期分授業料免除・納付猶予を希望する者は，次の点に注意をして申請をしてください。

○　出願対象者

・経済的理由により授業料の納付が困難であり，学業優秀と認められる者

・平成５年10月以降において，学資負担者が死亡，又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け，授業料の納付が著しく困難であると認められる者

・上記に準ずる場合であって，学長が相当の理由があると認めた者

○　願書の配布，出願説明会

＜出願説明会＞

私費外国人留学生

１月27日（木）　12：30～13：00

共通教育棟１番教室

一般学生

１月28日（金）　12：30～13：00

共通教育棟４番教室

＜願書の配布＞

出願説明会会場で配布するほかに，

１月28日（金）～２月４日（金）まで各学部の学務係（学生係）で配布

○　願書の受付期限

・３月16日までに各学部の学務係（学生係）

なお，出願書類は，揃い次第，早めに提出してください。

平成５年度　後期授業料免除について

平成５年度後期授業料免除者の選考が，11月12日に開催された授業料等減免選考委員会で行われ，右のとおり決定しました。

なお，授業料免除及び奨学金を希望するうえで，尋ねたいことがあれば，厚生課奨学係または，各学部の学務係（経済学部は学生係）へ相談してください。

区　分	出 願 者	免除許可者	不許可者
学　部	269人	258(57)人	11人
大学院	37	35(16)	2
計	306	293(73)	13

（　）は、半額免除許可者で内数

知っていますか。「学生健保」・「教災保険」

みなさん，病気やケガをしたらどうしていますか。本学には，医療に関する保険として，『富山大学学生健康保険』と『学生教育研究災害傷害保険』があります。両方とも長い名前なので，前者は「学生健保」，後者は「教災保険」と略しています。

この二つの保険には，入学時に全員が加入しています。そして，所定の給付を受けることができます。ところが，センター窓口を訪れるみなさんに聞きますと，十分に保険制度を理解していない人やこの保険のことを知らない（忘れてしまっている）人がかなりいるとのことでした。担当係としては，折りをみて保険の周知に努めていますが，ぜひ，この機会にこの二つの保険を理解し，利用してください。

なお，両保険とも所定の修業年限（学部生では4年間）が保険期間となっていますから，修業年限を越えた人は改めて加入してください。

「学生健保」

病院や接骨院で治療を受ければ，社会保険を利用しても医療費の1割から3割は窓口で自己負担分として支払わねばなりません。「学生健保」を利用すれば，年間55,000円までの範囲で自己負担分が後ほど給付されます。

「教災保険」

授業中や課外活動中にケガをし，「教災保険」の対象となった場合は，治療日数に応じ保険金が支払われます。（下表参照）

さらに，詳しく知りたい人は厚生課保健係又は保健管理センターに問い合わせてください。

「**教災保険**」の医療保険金

補償範囲	対象となるケガ及び保険金	入院加算金
授業中，学校行事中	実治療日数　4日以上が対象　6千円～30万円	1日につき　4,000円
上記以外で学校施設内にいる間	実治療日数　14日以上が対象　3万円～30万円	1日につき　4,000円
学校施設外で大学に届出た課外活動中	実治療日数　14日以上が対象　3万円～30万円	1日につき　4,000円

カッタ君の日記

保健管理センター教授　中　村　　剛

山口県宇部市の常盤公園には1993年現在27羽のペリカンがいる。ボクはその仲間のモモイロ・ペリカンで，名前をカッタという。生まれたのは1987年夏なのだが，両親が抱卵をしなかったので，人工孵化という奇妙な体験をした。初飛行は生後３カ月の頃である。人工飼育の鳥は，切羽（せっぱ）といって，片方の羽を第一関節のところで切られてしまうのだが，これはボク達の逃亡を恐れるあまり，切羽詰まったヒトが行なうことだ。通常は雌だけを切羽し，ボクのような雄は自由に飛べるようになっている。ボク達は一夫一婦制をきっちりと守って，これを揺るがせにしないし，ルーム・メイトをもつこともない。奥方が家に居て，一日中，スナック菓子のように魚をぱくぱく食べて居ると，遠くへ出動していた旦那の方は，夕方になると尾羽に哀愁を漂わせながら律義に帰ってくる。

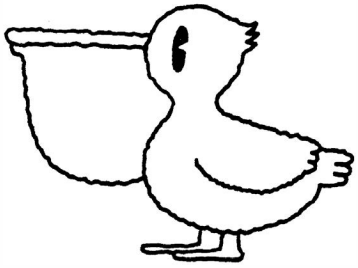
ところで，鳥類は孵化した途端に目に映った動くものを自分の親だと思い込む習性があり，これを刷り込み（インプリンティング）と呼んでいる。だから，ボクが生まれたときヒトを親だと思い，自分のことをヒトだと思い込んだのは当り前のことだ。

1990年冬の一日のことである。いつものように大空を飛翔していると，幼稚園の上にさしかかった。元気な歌声が聞こえてくる。男の子もいるが彼らはまだ飛べないらしいし，先生達はみんな切羽されているはずだ。そこでボクの方からご機嫌を伺うことにした。

なにしろ大歓迎である。ボクは全身これヘア・ヌードで，教育的見地からして少し気がひけたが，先生方は一向に気になさらぬ。それ以来，朝８時きっかりに登園するのがボクの日課になった。先生もボクの出席をとるようになり，「カッタ君」とよばれると大きく口を開けてアピールする。好きな勉強は音楽で，とりわけ「ミックス・ジュースの歌」には恍惚となり，遊びでは鬼ごっこの花形スターになった。こうして２～３年は夢のように過ぎたが，その頃，早熟のボクには園児より一足先に春が訪れ，お嫁さんが欲しくなった。幼稚園の女先生も素敵だったが，ボクは結局，常盤池の未亡人ミディの求愛を受け入れることにした。ミディの桃色の羽毛，特大の嘴には，女先生の緑の黒髪，紅（くれない）の唇も霞んでしまうほどの魅力がある。彼女の前ではボクは照れまくり，モモイロからピンクに変わる。

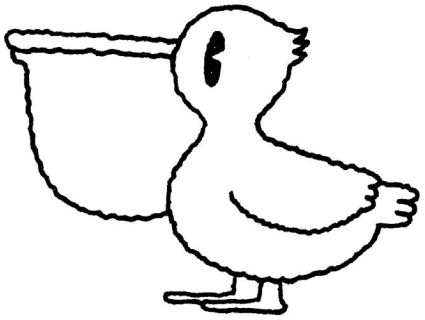
婚約した以上，ミディの手前ボクは通園するわけにはゆかぬ。そこで一度，お別れの挨拶に行ってきた。ボクが久しぶりに登園したので，園児は大喜び。未練たっぷり。嫉妬いっぱいの女先生は園児を駆り立て，「ミックス・ジュースの歌」の大合唱でボクを誘惑しようとする。しかし，ぐらりときたのは一瞬のこと，心を立て直したボクは毅然として園舎の上を周回すること数巡，従前の交誼に感謝の意を表しつつ別れを告げた。

1993年夏，ボクに男の子ができた。彼はもう飛べる。いずれ機会があったら親子で園を訪ねてみたい。



［解説］　著者カッタ君の名前は広く知られており，ここに改めて紹介する必要はないであろう。残念なことに，彼の文章はなんともひどく論評の外であるが，そこのところは我慢して，ひたすら彼の真率な訴えに耳を傾けてみるとしよう。

さて，トリとヒトとの交歓といえば，キジと桃太郎の例が想起されようが，あれはキビダンゴの給付を条件とした主従契約関係に過ぎなかった。カッタ君と園児との間柄はそんな安っぽい妥協の産物ではなく，世俗を超越したプラトニックな友情，君子の交わりというべきものである。そうした交わりは，平素，対人関係の不信を嘆いている諸君には理解しがたいものであろう。しかし，カッタ君に言わせれば，対人関係の難しさは当事者自身が創り出したものにほかならない。すなわち，諸君は生後わずかに20年前後。その須臾の間に仕入れた知識や経験でもって，ペリカンは鳥類，園児は人類などと分類をするのに血道をあげるばかりか，それが昂じて人種，民族，信教，学歴，容貌，性癖の違いなど，とかくなんでも差別の対象にしたがる。この弊害は，大規模なものでは民族紛争，小規模なものではいじめ，内にこもれば対人恐怖症となって表面化する。だから，そんな生半可な知識や経験は放り出してしまえ，忘れてしまえ，そうすれば「ヒトはトリ，トリはヒト」という，差別のない，自分と園児のように自由な心をもつ者同士の本物の友情が得られるぞ，とカッタ君は言っているのである。そうした自由人の心とは，キリストが「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ，天国にはいることはできないであろう。この幼な子のように自分を低くする者が，天国で一番偉いのである」（マタイによる福音書 18章．３－４．）と説いた「幼な子の心」であり，釈迦が「生きとし生ける者は悉く仏性（ぶっしょう）を有する（一切衆生悉有仏性）」と示した，その「仏性」のことである…と，気付いてみると，カッタ君は巧まずして聖者の道を歩いていることになる。紙幅が少ないので，これ以上解説することができないのが残念だが，なにはともあれ諸君，カッタ君の偉大さが分カッタ～ん！



キャンパスウォッチング

南日先生の胸像

名誉教授　高　瀬　重　雄

(I)　五福キャンパスの正門から，図書館にむかってメイン・ストリートを南へ進むと，人文教棟の前のところに，一基の胸像の建っているのが目につく。南日恒太郎先生（1871～1928）の銅像であって，朝倉文夫の原型による製作である。もと蓮町の構内にあったのを，五福キャンパスの現在地に移築したのは，たしか昭和36年（1961）の早春のころだったように記憶する。

(II)　南日先生は，富山市の東長江に呱々の声をあげ，富山県尋常中学校（いまの富山高等学校）を中途退学の後は，ほとんど自学自習で国語および英学の研究に進まれた。自主自律のきびしい規制を設けて，研究にはげまれた結果は，国語と英語の中等教員免許を取得され，さらに英語に関しては，高等教員免許という当時最高の免許状を得られた。京都の旧制第三高等学校（いまの京都大学）講師や，東京の学習院（いまの学習院大学）の教授に任じられたのは，先生の篤学と謹厳なお人柄が，ひろく認められたからにちがいない。

一方，「英詩藻塩草」をはじめ，「英文解釈法」や「和文英訳法」など多数の著書論文を通じて，学界と教育界に貢献された功績もひじょうに大きかったといえる。

(III)　大正12年（1923）に，富山市蓮町の地（現在の馬場公園）に，旧制の富山高等学校が創立されることになると，先生は迎えられてその初代の校長に任じられた。旧制富山高校は，尋常科と高等科とを有する七年制の学校であって，高等科には文科と理科があり，それぞれ甲類と乙類とに分かれていた。甲類では英語の授業時間が多く，乙類ではドイツ語の時間が多く組まれていた。この学校の初代校長として，先生はひたすら学校の経営に当られた。「ヘルン文庫」の誘置なども，先生の御尽力によってはじめて可能になったといえる。

先生には趣味としてオルガンの演奏に興じ，また油絵の筆をふるうという一面があった。さらに登山を好み，水泳や乗馬に興ずるという一面もあった。謹厳で趣味のひろい先生は，多くの学生にも親しまれ尊敬された紳士であった。

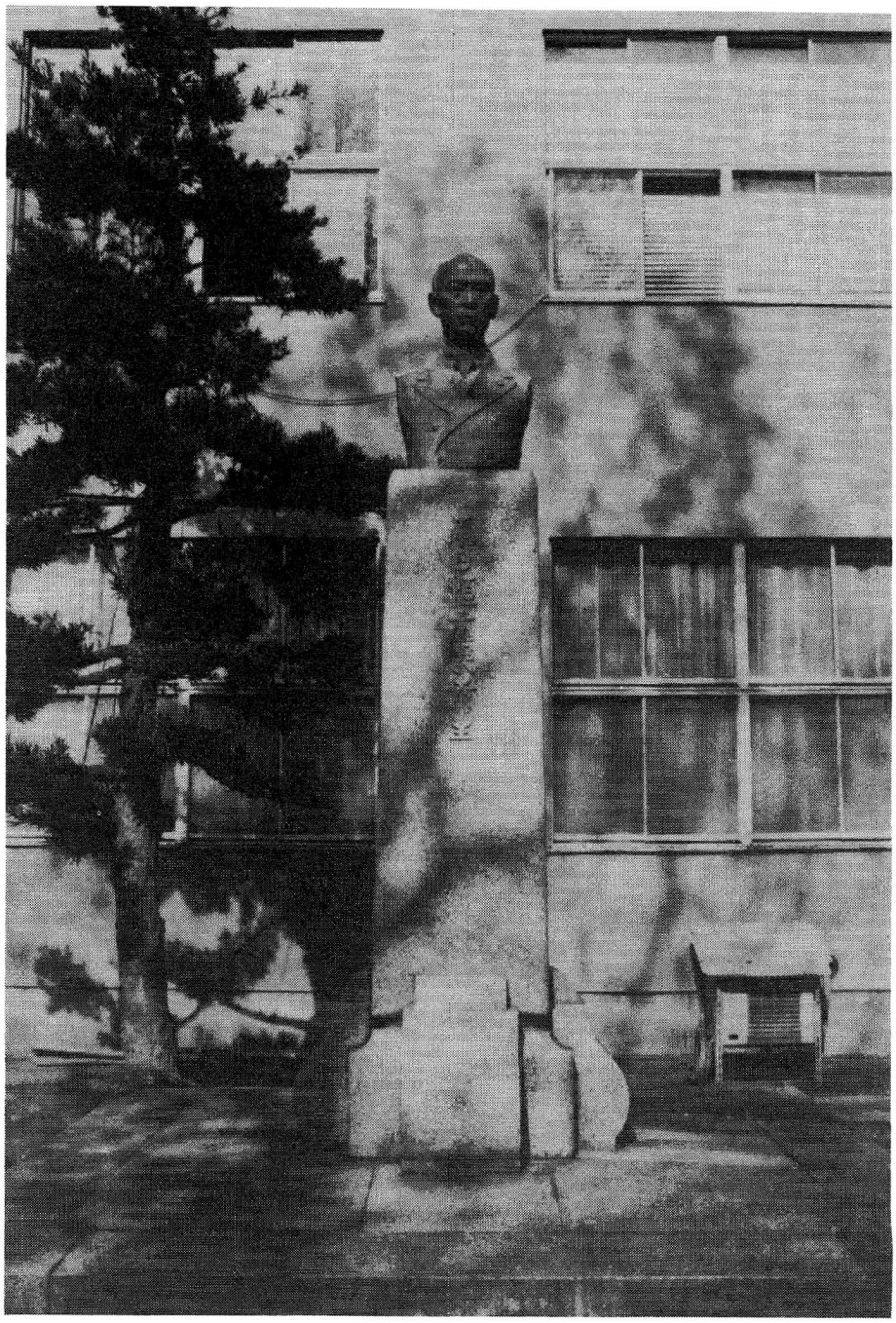
(IV)　さて私は，大正15年（1926）旧制富山高校の文科甲類に入学し，３年間在学ののち，昭和４年（1929）京都帝国大学の文学部・史学科に入学した。旧制高校在学中は，校長の南日先生に色々面倒をおかけしたように思う。たとえば，我々のクラスのもの数名が話しあって，南日校長に課外の英語の授業をお願いしたことがある。先生は，学生の希望を容れられ，みずから課外授業の講壇に立たれた。アービングのスケッチ・ブックを教科書とされたが，先生の英語の発音がひじょうにクリアーであり，翻訳の日本語もまた流麗であったことを，未だに忘れることができない。その意味で私どもは，先生の晩年の教え子であったわけである。

(V)　昭和３年（1928）７月の暑中休暇には，岩瀬浜で学生の海水浴が行われた。水泳の好きな南日校長も，これに参加されたが，渚で遊泳中に突如として姿がみえなくなった。それは７月20日午前10時30分すぎのことで，従四位勲三等の温雅な先生の悲しくもあっけない最期であった。

７月24日に行われた校葬に，文科甲類の一学生として私もお参りしたが，先生の柩を送る野路に，たくさんの弔花の列が続いたことを思い出す。

先生が初代校長をつとめられた旧制富山高校は，昭和24年（1949）になって新制の富山大学に包轄され，文理学部として大学のなかに組み込まれた。やがて文理学部の経済学科が独立して経済学部となり，文学科は人文学部に，理学科は理学部に発展した。教養部が独立したのも，文理学部からであった。ヘルン文庫は，附属図書館に保管されている。

思えば今日の富山大学の繁栄は，一朝一夕にしてもたらされたものではない。私は南日先生の胸像の前に立つとき，古くて遠い学園の歴史を思い，粛然とした気持ちにさそわれることが多い。



「へるん文庫」縁起　6

人文学部助教授　二　村　文　人

今回は，ヘルン文庫所蔵の和漢書を紹介する。「カタログ」によると，文庫には106点364冊の和漢書が収められており，それは冊数で言うと全体の一割半近くにのぼる。

まず，帝国文庫38冊。帝国文庫は，明治26年から30年にかけて50冊，31年から36年にかけて続編50冊，更に昭和４・５年に昭和版30冊が，いずれも博文館から刊行された。戦後になって注釈や口語訳を備えたテキストが作られる以前，帝国文庫は容易に日本古典，殊に江戸文学に親しむことのできる貴重なシリーズだった。その中で，ハーンの蔵書には西鶴・近松・馬琴・一九，それに『騒動実記』『大岡政談』『仇討小説集』などが見られる。

『国書総目録』は，江戸時代末までの和書を網羅した目録で，今日の古典研究に欠かせないものである。公共の図書館や文庫の所蔵先も掲載されていて，当文庫の蔵書は「富山大ヘルン」と記してある。『カタログ』の和書と『国書総目録』を対照していくと，伝本の少ない稀覯本の含まれていることがわかる。以下，そのいくつかを紹介する。

『近世異説奇聞』（紀常因著）は，ヘルン文庫にのみある孤本である。『狂歌百物語』（天明老人撰，嘉永６年跋）は，全編揃った完本はほかに国会図書館しかない。『今古奇談翁草』（浦辺源曹著，安永７年）と『御伽厚化粧』（中尾守興述画，享保19年）も，あとは国会本だけである。『翁草』の源曹は読本作者伊丹椿園の通称。全10話の短編集で，隠形・飛行の幻術に長じた崑崙兵衛という中間の活躍する話や，虚説を並べ立てるあまり怪異に逢って狂死する話などを収める。『御伽厚化粧』は，各巻３話合計15話の諸国の奇異怪談を収めた浮世草子で，箕面の滝壺に入って弁天王宮に行った絵師柳瀬桃沢子のような異郷訪問譚や，江州安土の鯰の妖怪のような民話的な奇異譚が語られている。

これらはいずれも印刷刊行された版本だが，『木耳雑記』（風月舎松窓著，嘉永４年）は著者の自筆本，『王心抄』（聖憲著，室町初期）も慧岸による文化８年の写本である。

次に，現存する伝本の比較的少ないものをあげる。『怪談諸国物語』（享保11年）は，西鶴の門人北条団水編の浮世草子で『一夜船』の改題本。「花の一字の東山」「人を釣る夷三郎」など26編の怪異短編小説を収める。『怪異前席夜話』（反古斎著，寛政２年）『怪物与論』（十返舎一九編，享和３年）は読本で，いずれも現存本が少ない。

『新撰百物語』は，現存する伝本がいずれも一部を欠く零本であるために作者も刊年も明らかでない。ヘルン文庫本も巻５の巻末を欠くのが惜しまれるが，狐・狸・猫又・幽霊・敵討・人身御供などの題材を取り上げて，目先を変えた叙述の形式で読者をひきつけたようだ。この『新撰百物語』と『近代百物語』（川崎某編，明和９年，後刷本で第２巻を欠く）は，いずれも明和期（1764～1772年）に同一の書肆から刊行された百物語系の新作の怪異小説である。このほかにも，『百物語評判』（貞享３年）『太平百物語』（菅生堂人恵忠著，享保17年）など，「百物語」を冠した江戸期の仮名草子・浮世草子・読本が目につく。

『猿著聞集』（八島定岡著，文政11年）は，鎌倉時代の説話集『古今著聞集』に擬して，当代の狂歌師の逸話などを主とした読本だが，巻２で赤岩庚申山の奇景や，火の玉・鬼火・幽霊などの怪奇談を述べているところがハーンの興味を引いたと思われる。『想山著聞奇集』（三好想山著，嘉永３年）も書名の示すとおり奇聞集で，「天狗の

怪妙并狗賓餅の事」「猫のもの言ひたる事」「日光山籠り堂不思議の事」など，合せて57話を収める。想山は生来奇談を好んだが，虚説を嫌い，自ら奔走して事実を究明することを楽しんだという。『富士の人穴物語』は御伽草子で，版本も多いが当文庫には写本が伝わっている。源頼家の命を受けた仁田四郎忠綱が富士の人穴を探険し，更に地獄や極楽を巡って歩くという異界遍歴物語である。

『骨董集』（山東京伝著）と『用捨箱』（柳亭種彦著，下巻欠）は，ともに江戸の風俗に関する考証随筆である。京伝も種彦も戯作者として知られるが，他方で書物の蒐集や風俗考証といった凝り性の一面を見せている。このように江戸随筆と呼ばれる作品群は，今日の〝エッセイ〟とはいささかその性格を異にしており，極めて雑多な内容を含んでいる。

そのほかよく知られた作品に次のようなものがある。『十訓抄』『古今著聞集』（橘成季著，明和７年，後刷）は説話集。『北越雪譜』（鈴木牧之著，天保７・13年）は雪国の生活を紹介した随筆で，『北越奇談』（橘成世著，文化９年）『北越巡杖記』（鳥翠台北巫著，文化４年）もこの系列にある。『古今奇談繁野話』（近路行者著，明和７年）は後刷本だが，上田秋成の『雨月物語』に先行する初期読本の傑作である。『化競丑満鐘』は，読本作者曲亭馬琴には珍しい浄瑠璃の作，『新累解脱物語』（文化３年）は同じ馬琴の読本で，地獄巡りのありさまが描かれている。『小夜嵐』は西鶴の作かと疑われたこともある浮世草子で，地獄にまつわるさまざまな話が展開し，そこに文覚・頼朝・那須与一といった歴史上の人物が登場する。

『近世畸人伝』正続（伴蒿蹊著，寛政２・11年）は伝記，『朝鮮人大行列記』（延享５年）『琉球人大行列記』（寛政２）は外交・風俗資料。『沙石集』（僧無住著，天和３年，後刷）『新沙石集』（僧虚舟著，刊年不明）は仏教説話集で，そのほかにも『盆供施餓鬼問弁』（興正寺諦忍著，明和２年序）『孝子善之丞感得伝』（直往談・厭求筆記，享保８年跋）『善悪因果経和談図絵』（松亭金水釈・玉蘭斎貞秀画）など仏教関係の蔵書も少なくない。

以上，主に江戸期の版本を紹介してきたが，ほかに明治版のものがいくつかある。

なお，富山県立図書館には素琴志田義秀博士の俳諧関係資料のコレクション「志田文庫」4800冊があり，全国から多くの俳諧研究者が訪れている。怪異小説を中心とした「ヘルン文庫」と俳書の「志田文庫」は，江戸文学を研究する地元の学生や研究者によって大いに利用されてよいと思う。

〔付記〕作品内容の紹介は，多く『日本古典文学大辞典』（岩波書店）によった。　（完）

訂正とメモ

物みなの底にひとつの法（のり）ありと日にけに深く思ひ入りつつ

82号11頁の中で掲げた湯川博士の歌は，自選集第五巻『遍歴』第Ⅳ章「歌集深山木（まみやぎ）」のなかの一つです。＜少年の頃＞から＜夢＞まで473の短歌が掲載されていますが，＜篭居（こもりゐ）＞のなかに「物理学に志して」の前置きのあとに第一首として掲げられているのがあの歌で，正確には上記の通りでした。お詫びして訂正いたします。

▽▲▽▲▽ 学園ニュース編集委員 ▽▲▽▲▽

学生部長	浜谷正人	経済学部	伊藤格夫
人文学部	中村雅之	〃	長谷川　隆
〃	岩井瑞枝	理学部	広岡公夫（顧問）
教育学部	呉羽　長	〃	鳴橋直弘
〃	原田嘉昭（顧問）	工学部	女川博義
		〃	長谷川　淳